

横浜市青葉区の「美しが丘西追分公園」の愛護会活動について

○今井 健（東京農業大学大学院造園学専攻）

△栗田和弥（東京農業大学）      △麻生 恵（東京農業大学）

近年、地域住民同士の交流やボランティア活動、環境への意識が高まっている。そのため、市民参加型の管理組織が増えている。ここでは、私の関わっている、横浜市青葉区にある美しが丘西追分公園での、愛護会活動について紹介する。

この公園は、多摩丘陵に新規に造成された場所で、平成12年に開園した。また、「地域住民の交流を深める・地域の子供の環境教育・憩いの公園」を目的として、平成18年に愛護会が設立された。

愛護会では、地域住民が気持ちよく安全に、楽しく利用できるように、定期的に清掃活動などの維持管理、また、各種イベントの開催などを行っている。それらの活動により地域住民の交流を深め、ボランティア活動・環境意識の向上などをもたらしている。

しかし、現状の問題としてこの会の会員の多くが若い世代（30代～40代）で構成されているため、愛護会活動を率先して行う会員が少ないことや、活動の制限などがあげられる。

これらの問題を解決するために、より適切な組織の管理・運営の仕組みづくりを考察した。